

編集ノート

林紘関係の文章を本誌に連載し始めたのは、2005年の第28号からだった。資料をできるかぎり掘りおこす。この方針にしたがって調べ始めた。論文のなかで言及された書籍は、実物を手元において検討する。いくつかの問題に気づく。2006年に問題の核心部分が明らかになった。そのつど研究会のホームページに掲げ、『清末小説から』でも報告した。といっても、誰も見ていない可能性もある。2007年5月、台湾の大学で話をする。林紘が冤罪であることを知ってもらおう好機会だ。披露する気になった(樽本「林琴南冤獄

林訳莎士比亚和易ト生」台湾国立政治大学中国文学系『政大中文学報』第8期(2007)。7月には『林紘冤罪事件簿』が印刷されてくる(奥付の発行日は2008.3.31。国会図書館から問い合わせがある。数字が間違っているのではないかと)。同年10月には日本中国学会大会(名古屋大学)で報告した(それを紹介する文章がある。曹虹著、野村鮎子訳「日本中国学会第59回大会傍聴記」

『日本中国学会便り』通巻第13号2008.4.20) その間、林紘をめぐるいくつかの課題について並行して調査をすすめていた。文学史の記述を追跡してわかったことがある。日本の研究論文は、いずれも五四時期の林紘を批判して一致している。中国の研究をそのまま引き写しているだけなのだ。例外がない。銭玄同、劉半農、陳独秀、鄭振鐸ら文学革命派によって実行された林紘批判の策略は、中国ばかりでなく日本の研究者をも巻き込んで大成功のうちに完遂された。80年から90年というのだから、私は、感嘆するばかり。林紘冤罪事件簿第2集として『林紘研究論集』の刊行を予定している。「林訳チヨースー」「林訳ユゴー」「林訳「ハムレット」」「ラム版『シェイクスピア物語』最初の漢訳と林訳」「林訳シェイクスピア」「中国現代文学史における林紘の位置」「陳独秀の北京大学罷免」「林紘落魄伝説」など。来年

清 末 小 説 第31号

定 価 3,150円(本体3,000円)

発 行 2008年12月1日

発行兼編集人 樽本照雄

発行所 清末小説研究会

〒520-0806 JAPAN 滋賀県大津市打出浜

8番4-202 樽本方

郵便振替 00990-6-40475

<http://www.biwa.ne.jp/~tarumoto>

印刷所 木村桂文社